

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和3年4月)

～3度目の緊急事態宣言の発出により、現状判断は大きく低下～

- 景気ウォッチャー調査・4月調査の近畿地域の結果は、現状判断が33.3と前月比で3か月ぶりの低下となった。指数は景気横ばいを示す50を34か月連続で下回った。一方、先行き判断も39.2と2か月連続で低下している。
- 足元の景気については、まん延防止等重点措置の適用や、3度目となる緊急事態宣言の発出により、関連業種に大きな影響が出ている。休業要請や営業の時短要請などで、百貨店や大型商業施設、テーマパーク、飲食店等の売上が大きく減少したほか、企業のテレワークの拡充などが都市部の往来の減少につながり、コンビニなどでも客足が減少する形となっている。
- そういった中、いわゆる巣籠り消費は増加基調となり、スーパーなどにはプラスに働いたものの、前年4月の緊急事態宣言時のような力強さはないといった声も聞かれる。
- 一方、先行きについては、緊急事態宣言が延長となる可能性が高まる中、百貨店やホテル、飲食店を中心に、厳しい状況を予想する声が多い。また、宣言の解除に対する期待もみられるものの、仮に解除された場合も、すぐに次の感染の拡大につながるといった声もあり、概して先行きを不安視する見方が多い。
- 前月までと同様に、景気回復の条件として、ワクチンの接種を挙げる声は多いが、ワクチンへの期待値そのものは前月よりも下がっている。接種がなかなか進まない今の状況も、先行きへの厳しい見方につながっている。

「休業」関連のコメント(現状判断・家計関連)

家計動向関連	変わらない	百貨店(商品担当)	・新型コロナウイルスの変異種の感染が再拡大し、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言が連続で適用、発出されている。前年以降、来客数は規制の解除の都度復調しかけるものの、規制の適用のたびに悪化している。今月は、前年が感染拡大による時短や休業の影響で売上が大きく落ちたため、月前半は売上の前年比が大きく伸びたものの、その後は急激に悪化している。消費意欲にも大きなダメージとなっている。
		都市型ホテル(販売促進担当)	・4月の客室稼働率は、初旬は45%前後で推移していたが、新型コロナウイルスの感染者数が増加するにつれて、徐々に低下した。特に、関西での感染者数に反比例するように、中旬には25%前後に、下旬には10%台にまで低下した。レストランも来店見込みが少ないため、まん延防止等重点措置によってディナーを4月5日から休業し、緊急事態宣言が発出された月末にはランチの休業が決まった。客室、レストラン共に、予約数や問合せが少なくなっている。
		通信会社(社員)	・緊急事態宣言によるテナントショップの休業に加え、店舗スタッフの新型コロナウイルスへの感染で臨時休業も行っている。
やや悪くなっている	や	一般小売店[花](経営者)	・前年と同様に、緊急事態宣言や取引先の休業などの影響で、販売量が減少している。先が見通せないほか、1年を通して景気が悪いなど、前年よりも更に悪くなっている。
		百貨店(外商担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数が減少している。高額の時計や宝石、海外ブランド品は売れているが、その他は非常に低調である。さらに、緊急事態宣言による休業要請で、25日からは臨時休業となる。
		家電量販店(店員)	・大阪、兵庫を中心とした新型コロナウイルスの感染者数の増加により、来客数が減少したほか、緊急事態宣言による休業で売上が減っている。
		家電量販店(店員)	・緊急事態宣言が発出され、家電量販店にも休業要請が出ている。客の様子にも微妙に変化があり、モールやテナントへの来店も自粛傾向となっている。
		その他専門店[ドラッグストア](店員)	・緊急事態宣言による大型施設の休業で、来客数が2割減となり、売上も減少気味である。ただし、日用品関連や食品の売行きはとても良い。
		その他専門店[医薬品](管理担当)	・大阪や兵庫では、3度目の緊急事態宣言の発出で各施設や大型ショッピングセンターが休業となり、外出を控える環境となっている。

家計動向関連	なやや悪く なっている	その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・飲食店や大型商業施設への休業要請で、経済は上向く機会を再度失ったと感じる。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・市内の取引先が多いため、大型ビルの休業によって、売上が減少している。
	悪くなっている	一般小売店〔野菜〕（店長）	・また緊急事態宣言が発出され、当社の飲食関係の取引先は休業となっている。今後も厳しい状態が続く。
		百貨店（売場主任）	・休業要請によって来店客は6割程度に減り、ビジネスとしては厳しい。
		百貨店（売場主任）	・今月は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、月前半は来客数が前月よりも落ち込んだ。さらに、緊急事態宣言の発出によって、大阪市内の店舗は休業要請に従わざるを得ず、売上にはかなりの影響が出ている。
		百貨店（企画担当）	・4月25日から当地域に3度目の緊急事態宣言が発出された。店舗の休業に入ったため、当然のように来客数は大きく減少している。前年ほどではないにしても、通常とは異なる営業体制のため、売上の減少は避けられない。
		百貨店（企画担当）	・緊急事態宣言による休業要請のため、25日以降は食品と化粧品のみでの営業となっている。
		百貨店（特選担当）	・緊急事態宣言により、臨時休業を行っている。前回の緊急事態宣言時は営業を継続していたため、可能な範囲で売場を強化できたが、今回は営業していないため、オンラインや電話注文といった限られた対応しかできない。
		百貨店（マネージャー）	・緊急事態宣言が発出され、4月25日から食品と一部の売場を除いて休業となり、営業できなくなっている。
		百貨店（マネージャー）	・府内の緊急事態宣言の発出に伴い、4月25日から食料品フロア以外は臨時休業となっている。オンラインストアや電話注文などで休業中の販路は確保しているが、先行き不安の影響か、買い控えの傾向は強く、売上の基盤にはなっていない。
		百貨店（服飾品担当）	・今月の初旬はやや回復の兆しがみられたものの、新型コロナウイルスの感染者数の増加により、客足が大きく落ち込んだ。その後、東京及び大阪、京都、兵庫に緊急事態宣言が出されることが決まると、一気に直前の買物が増えたものの、発出後は食品以外の休業を行ったため、大きく売上が落ちることになった。また、百貨店各社で対応の差が出ており、化粧品を展開する店舗としない店舗とで、足並みがそろわない形になっている。
		百貨店（宣伝担当）	・休業要請に伴う営業の自粛により、売上がゼロになるだけでなく、ゴールデンウィークから母の日に掛けて積上げていた、商材の在庫リスクも高まっている。さらに、当社だけでなく、取引先の雇用にも影響が出ている。
		百貨店（販売推進担当）	・中旬までは堅調な売上であったが、緊急事態宣言の発出に伴い、休業を余儀なくされている。休業しても街の人出は減っていないため、非常にやるせない。
		百貨店（営業推進担当）	・3度目の緊急事態宣言の発出に伴う、外出の自粛や休業の影響が出ている。
		家電量販店（店員）	・休業要請があり、閉めざるを得ない状況になったため、月後半の売上が低調となっている。
		旅行代理店（店長）	・まん延防止等重点措置から再度の緊急事態宣言の発出となり、店舗は休業し、新規受注もない。現状はキャンセルが新規受注を上回っている。
その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・大阪、兵庫を中心に、新型コロナウイルスの変異種の急激な感染拡大や、緊急事態宣言の発出により、食料品売場を除いて休業中である。		

「ワクチン」関連のコメント（先行き判断）

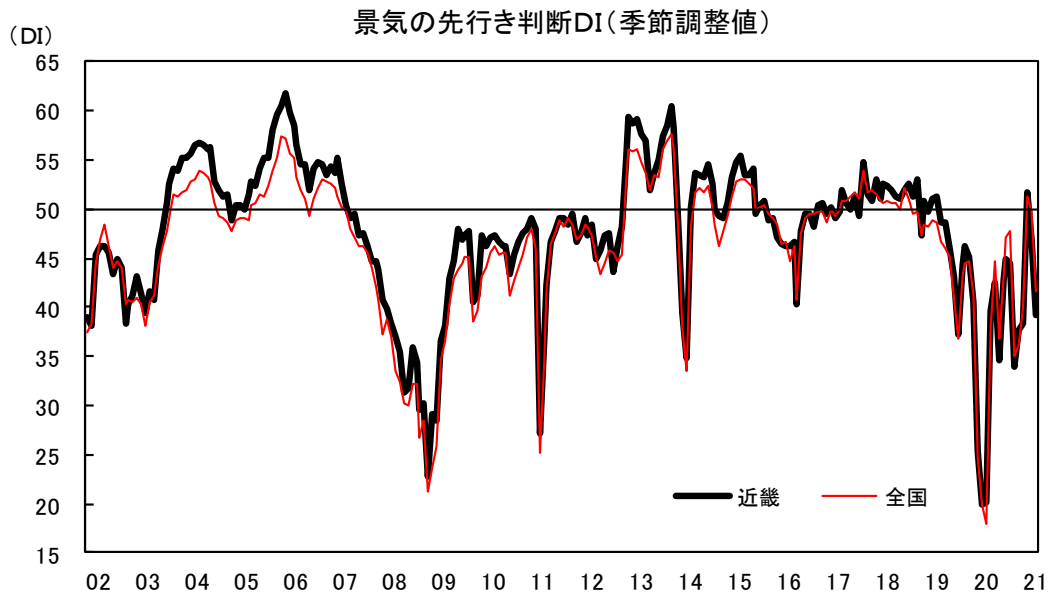
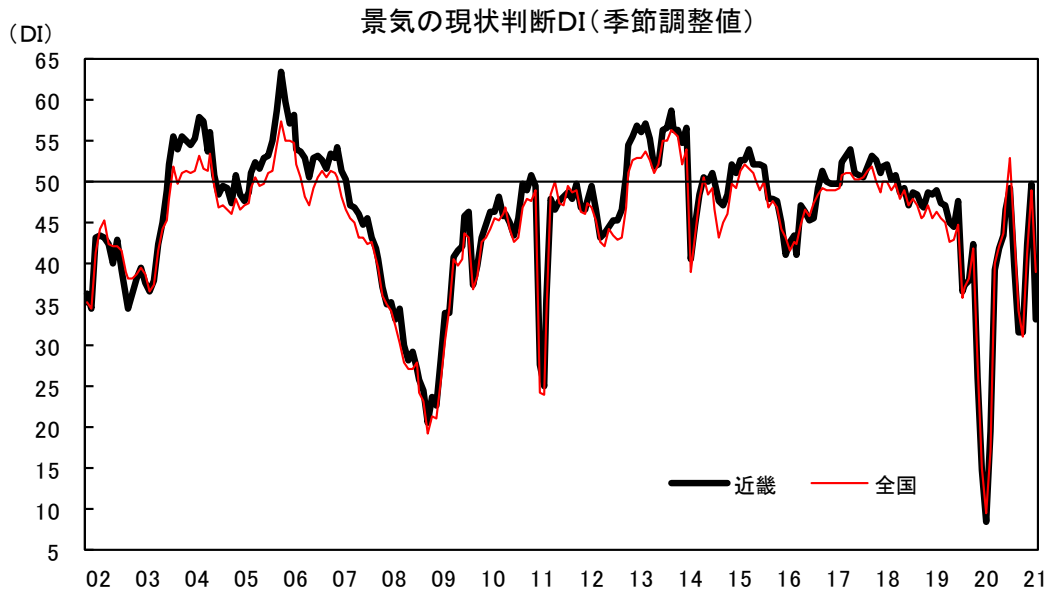
家計動向関連	やや良くなる	百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスのワクチンについては、身近な客も接種し始めているなど、見通しが明るくなってきている。
		百貨店（特選担当）	・東京オリンピックの開催の有無による影響が、良くも悪くも大きいなど、正直なところ先のことは分からない。ただし普通に考えれば、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチン接種も増えるため、やや良くなると予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチンの供給も増えることが予想される。人流が戻りさえすれば、客の購買意欲は高まると考えられる。
		百貨店（販売推進担当）	・全ては新型コロナウイルスの感染状況に懸かっている。休業している現状に比べれば、改善すると予想されるが、ワクチン接種の動きや回復の見込みは当初の期待を下回っており、売上の見込みは下方修正せざるを得ない。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスのワクチンは、高齢者への接種が7月までに完了する見込みである。頼みのワクチンがある程度行き渡れば、安心感が広がることで、消費マインドも高まる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、感染者数も徐々に落ち着いてくれば、周辺の企業の出社も少し増えると予想される。
		高級レストラン（企画）	・地域の観光支援事業やGo Toキャンペーンの再開、新型コロナウイルスのワクチン接種による影響で良くなる。
		変わらない	一般小売店〔衣服〕（経営者）
	一般小売店〔時計〕（経営者）		・少しずつ、新型コロナウイルスのワクチン接種券を受け取ったという話を聞く機会が増えたが、その後の具体的な話は全くない。その一方、感染のうわさだけが先行しており、うわさがうわさを呼ぶ状況で、余り良い話にはなっていない。ワクチンの具体的な効果ははっきり出て、安心感が広がるまでは、買物をする気にはならない。

家計動向関連

変わらない	百貨店（店長）	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの感染者数の減少、ワクチン接種などのスケジュールがみえなければ、数字が上向くことはない。
	百貨店（商品担当）	・新型コロナウイルスとの共存で、暮らしに感染対策が定着しつつあるなか、ワクチンが経済活性化の切り札とされてきた。しかし、供給や接種は遅々として進んでおらず、変異種の感染の急拡大によって3度目の緊急事態宣言が発出された。企業業績には大きな痛手となるため、株価が下落しているように、先行きの不安感が強く、景気の回復が見通せない状況である。
	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が遅々として進まないなか、変異種の影響もあり、感染の拡大が急速に収まるとは思えない。それに伴い、夏一杯は外食や旅行の自粛などが続き、身近な店で買物や飲食をする傾向が続く。
	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種次第であるが、緊急事態宣言が繰り返し出されるようでは、経済に与えるダメージも大きい。感染が収束しても、食品以外は消費が収縮しているため、なかなか元には戻らないと予想される。
	コンビニ（経営者）	・生ジョッキ缶ビールの新製品が出て、売上を伸ばしている。新型コロナウイルスのワクチン接種が増えれば、少しずつ回復の兆しも見えてくる。
	衣料品専門店（店長）	・緊急事態宣言の効果が出て、少しは新型コロナウイルスの影響も緩やかになるが、また感染の第4波、5波が続くと予想される。ワクチンの接種が広がるまでは、まだまだ景気は厳しい。
	家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチンが行き渡るには時間が掛かる。様子見が続くため、消費意欲は抑制された状態が続く。
	乗用車販売店（営業担当）	・緊急事態宣言の延長の可能性が高まっているため、新型コロナウイルスのワクチンが行き届き、感染の抑制につながるまでは、横ばいの推移となる。
	乗用車販売店（販売担当）	・3度目の緊急事態宣言の発出もあり、新型コロナウイルスのワクチン接種や、治療薬の開発などが進まない限り、現状の維持が精一杯である。
	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・緊急事態宣言による外出の抑制はあるものの、新型コロナウイルスのワクチン接種や東京オリンピックの開催による、景気へのプラス効果も考えられる。大幅に改善される要因は見当たらないが、現状維持か緩やかな回復の動きが予想される。生活必需品を取り扱う当社については、現状維持が可能である。
	一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言の延長の有無に左右されるが、時短要請が続くことを想定すると、景気の回復要素は少ない。仮に、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んだとしても、20～50代への接種が進まない限り、効果は薄い。短期的に行動を抑えて感染者数が減ったとしても、また増加するため、飲食店としては非常に歯がゆい。
	観光型旅館（経営者）	・全ては新型コロナウイルスの感染状況次第である。また、ワクチンの接種が広く進み、世間が安心して外出できる環境となるほか、Go To Travelキャンペーンの再開や、旅行をしても大丈夫といったメッセージが出なければ、状況は変わらない。
	都市型ホテル（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染者数が完全に下火になるまでは、前年からの低調な景気のままであると予想される。ワクチンの接種には不透明感もあるが、効果次第では上向きになることも考えられる。まずは関東や関西の感染が収まり、人の流れが出てこなければ、ホテル業界は厳しい状況が続く。
	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・一旦は緊急事態宣言の効果は出るものの、何度も繰り返すうちに、徐々に効果も薄れていくと予想される。新型コロナウイルスの変異種の存在に加え、ワクチンの効果や接種のスピードといった不確定要素も多く、当面は回復が期待できない。
	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・新型コロナウイルスのワクチン接種で感染の拡大を抑えることができれば、回復に向かうことが期待されるものの、接種がうまくいくとは思えない。
その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・生徒の退会者数がかつてない規模となるなど、新型コロナウイルスの影響が感じられる。ワクチンが行き届き、少しでも景気が改善されれば、最低でも現状は維持できると予想される。	
やや悪くなる	百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスのワクチン接種のスケジュールが立っていないほか、行動の自粛と緩和を繰り返すことでの疲労感など、購買意欲が高まる要素が見当たらない。
	百貨店（マネージャー）	・コロナ疲れのなか、緊急事態宣言の発出で小売などの経済活動が縮小し、企業や客のストレスが大きく悪化している。特に、新型コロナウイルスのワクチン接種に関しても、変異種が出現するなか、効果に懐疑的な見方が出てきている。景気回復はしばらく困難な局面と考えられる。
	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種も遅れそうで、先行き不安によって消費マインドは更に冷え込みそうである。
	その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・15歳以上の国民が、新型コロナウイルスのワクチン接種を終える年末頃までは、緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置などの繰り返しとなる。
	一般レストラン（企画）	・大阪だけでなく、関西全体の新型コロナウイルスの感染者数や重症者数はもちろん、ワクチンの接種も先行きが見えないため、3か月で良くなるとは思えない。まだまだ回復には時間を要すると予想される。
	都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスのワクチン接種も順調に進むかが不透明で、接種を前提に宴会を考えている客もいるが、難しいように感じる。レストランは少人数での利用が見込まれるものの、中規模の人数で宴会を行うと非難される世の中であり、企業側も消費者側も難しい状況である。
	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスのワクチンが行き渡るまでには、まだ時間が掛かるが、変異種の感染拡大で経済活動が制限されると予測される。
	住宅販売会社（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市場に活気がなくなっている。ワクチンの接種が進まなければ、景気は改善しない。
その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率は先進国で最低であり、高齢者を訪問しても接種したという話を聞いたことがない。政治や行政の駄目さを肌で感じており、先行きには明るさを感じられない。	

家計動向関連	悪くなる	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が国民の50%以上で実施されない限り、自由な外出ができない。結果として、外出着の需要は皆無といえる状態になる。
		住関連専門店（店長）	・当店の商品は日用品や必需品ではないため、世間に不安が広がっているときは、業績が伸び悩むことを何度も経験している。新型コロナウイルスのワクチン接種や、東京オリンピックの開催への不安などが、かつてないぐらいに広がっている以上、楽観的なビジネスの計画は立てられない。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言が前回の解除から短期間で再発出された。また、現在の感染スピードや感染規模の大きさから、もはや楽観的な見通しを立てることが難しい。ゴールデンウィークの休業による損失は甚大で、協力金などの相応の支援やワクチン接種の急拡大がなければ、事業の存続が厳しい状況となっている。
企業動向関連	やや良くなる	新聞販売店 [広告] (店主)	・希望的観測もあるが、新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば改善に向かう。
	変わらない	食料品製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスのワクチンを接種しない限り、人の流れは増えないため、景気は変わらない。
		繊維工業（団体職員）	・今後は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染者数が減少に向かうまで、厳しい状況が続く。
		金融業 [投資運用業] (代表)	・新型コロナウイルスのワクチン接種が広がり、感染者数は頭打ちになると考えられる。ただし、経済はハンドルを急に切っても反応できないため、来年以降の回復に期待したい。
		司法書士	・今回の緊急事態宣言や、新型コロナウイルスのワクチン接種で感染者数がどう変化するかによるが、これ以上悪くならないように願うばかりである。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・緊急事態宣言が延長されるか、解除されたとしても一定期間後の再発出が想定されるため、予断は許されない。新型コロナウイルスのワクチンの接種状況も、数か月では思ったほど進まないため、状況は良くならない。
悪くなる	不動産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響はしばらく続くと予想され、ワクチンの接種もなかなか進んでいないため、景気は悪くなる。	

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		19年				20年												21年								
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
現 状 判 断	近畿	48.9	47.5	47.1	45.1	44.6	47.6	36.5	37.4	38.0	42.4	26.1	14.7	8.3	19.6	39.3	42.0	43.4	46.7	49.2	39.9	31.7	31.7	42.4	49.8	33.3
	(全国)	46.4	45.7	45.1	42.7	43.0	44.9	35.9	37.2	38.3	41.9	27.9	14.9	9.4	17.0	40.0	42.2	43.7	47.8	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	39.1
先 行 き 判 断	近畿	51.3	48.6	48.6	45.9	43.2	37.2	44.2	46.1	45.2	40.4	25.3	20.0	20.2	39.6	42.5	34.6	42.8	44.9	44.4	33.9	37.6	38.4	51.6	46.9	39.2
	(全国)	48.6	46.7	46.0	45.1	40.9	36.8	43.1	44.5	44.6	41.4	24.8	19.8	17.9	37.9	44.6	36.7	42.9	47.1	47.7	35.0	36.1	39.9	51.3	49.8	41.7

※季節調整値